交流による地域活性化の優れた取り組みを表彰

第12回JTB交流文化賞 受賞作品決まる

ＪＴＢは19日、第12回「ＪＴＢ交流文化賞」の受賞作品を発表した。地域に根ざした持続的な交流の創造と各地域の魅力の創出、地域の活性化に寄与することを目的として、2005年に創設された賞。地域の組織・団体を対象とした「組織・団体部門」では、最優秀賞に大館市まるごと体験推進協議会（秋田県大館市）の取り組み「本場のきりたんぽ、秋田弁♪、かっちゃが魅力の秋田県大館市」を決定した。優秀賞は、あじ島冒険楽校（宮城県仙台市）「限界集落の社会貢献　昔の子どもたちから未来の大人たちへ」と、ＮＰＯ法人頴娃おこそ会（鹿児島県南九州市）「地域総力戦の観光まちおこし　～素通りのまちから観光地への歩み～」の２作品。選考委員特別賞には公益財団法人山本能楽堂（大阪府大阪市）「『芸能の都・大阪！』～the capital of performing arts in Japan！」を選んだ。

2017年ＪＴＢ新春経営講演会の会場で行われた授賞式（19日）

賞の意義と目的

ＪＴＢ社長
髙橋広行氏

「持続可能な観光」を応援

まずは、受賞された皆さまにお祝い申し上げます。

ＪＴＢグループは旅行業を通じて培ってきた「人と人を結びつける力」を活用して、あらゆる場所で交流を生み出し、地域や社会課題の解決にまでつなげていく交流文化事業を推進しています。05年にこの理念のもとにＪＴＢ交流文化賞を創設し、今回で12回目を迎えることができました。交流文化賞の大きな特徴は、地域の独自性が生かされ今後の発展が期待できる「持続可能な観光」を応援する賞だということです。

今後も受賞した地域の取り組みに対しては、表彰だけで終わることなく、さらなる地域の発展につながるよう、商品化やプロモーションなどをＪＴＢグループが全力でバックアップしてまいります。受賞地域の「これから」に、ぜひご期待下さい。

最優秀賞

方言を満喫できる「秋田弁ラジオ体操」

本場のきりたんぽ、秋田弁♪、かっちゃが魅力の秋田県大館市

大館市まるごと体験推進協議会
（秋田県大館市）

秋田名物として有名な「きりたんぽ」だが、その中でも本場と言われるのが大館市。札幌で勤務する大館市出身の教師が、地元郷土料理のお座敷「秋田弁ラジオ体操」などの取り組みが評判となっている。

過疎・高齢化や地域農業の担い手不足も課題となっていた中で、修学旅行などの誘致は、都市交流による地域活性化につながった。

【評価のポイント】

・本場の大館だからこその「きりたんぽ」や「秋田弁ラジオ体操」など、手作りの、まさに交流文化という内容である。こうした取り組みを称したい。

・「かっちゃ」（農家のお母さん）の人柄、キャラクターが非常に魅力的。一人がスターになるのではなく、地域の皆さんが一緒になって頑張ってほしい。

・かっちゃが前に出て旦那が陰で支えるという互いに支えあう仕組みも良かった。

・大館は新幹線も通っていない合間のまち。こうした地域の「まちおこし」を応援したい。

受賞の喜び

石垣一子会長

非常に大きな栄誉のある賞をいただいて会員みんな喜んでいる。

過疎や高齢化が課題となっている中で、団体旅行や個人旅行の誘客による都市交流の促進は地域に活力と元気を与えてくれる。私たちは地域の素材にアイデアとユーモアを盛り込んでお客さまに一生忘れられない素敵な思い出を持ち帰ってもらいたいとの思いで取り組んでいる。

この受賞をきっかけに大館市に来て、ファンになっていただきたい。

優秀賞

島の遊びを島外の子供たちに

網地島だけの魚釣り「あなご抜き」を教わる

限界集落の社会貢献 昔の子どもたちから未来の大人たちへ

あじ島冒険楽校
（宮城県仙台市）

あじ島冒険楽校がある網地島は石巻港から定期船で1時間。かつては3千人の住民も現在では40人の限界集落となり、小中学校は廃校になったままである。危機感を持った高齢化した島民が、かつての島の遊びを島外の子供たちに伝える活動を行う。教える喜びと教わる喜びで島民の団結力も強まり、ファンづくりも目標に今後も継続していく。

【評価のポイント】

・行政などの支援がない中で、これまで長く継続して取り組んできた点を高く評価。

・取り組みは非常に面白いが、今後も継続するためには行政の支援や、民間企業を巻き込んだ収益を得る仕組みづくりなど、何らかの「知恵」が必要。

受賞の喜び

奥田和慶
楽校長

受賞にびっくりしている。長年やってきた活動が認められた。

地域活性化というと交流人口を増やして観光客を増やして地域にお金を落してもらうという考え方だが、私たちは観光よりも心の交流を大切にして、島に住む人や来てくれた人がいかに幸せを感じるかという視点で活動している。

タツノオトシゴ養殖で町おこし

茶農家との茶摘み体験ツアー

地域総力戦の観光まちおこし
～素通りのまちから観光地への歩み～

NPO法人頴娃おこそ会
（鹿児島県南九州市）

知覧・川辺・頴娃(えい)の3町が合併した南九州市。最南端の頴娃町は観光来訪者が縁遠い町であったが、埼玉県からの移住者によって日本で唯一のタツノオトシゴ観光養殖場の開設を契機に町おこしを始める。地域産品のお茶と田園風景美の露出、地元商店街や空き家を活用し、行政と地域住民の連携によって観光客の増加やUIターン効果にもつながっている。

【評価のポイント】

・短期間で大きな成果をあげている。タツノオトシゴ養殖をきっかけとしながら観光まちづくりにつなげるパワー、すごさが評価できる。

・移住者と地域住民が連携した成功例。受賞をきっかけに次の移住者への情報発信、まちおこしにつながることが期待できる。

受賞の喜び

加藤潤観光プロジェクトリーダー

11年から応募し続け、やっと受賞できた。感慨でいっぱいだ。

農家との連携や空き家の再生に取り組むことによって、観光拠点が生まれるなど、観光業者だけではなく、地域の各種団体との連携によって町づくりを実施することが観光に結び付いた。町づくりが観光に効くのを実感した。

選考委員特別賞

初心者向けに上方伝統芸能

能楽体験講座を実施

「芸能の都・大阪！」～the capital of performing arts in Japan!

公益財団法人山本能楽堂
（大阪府大阪市）

大阪のイメージを「下品で訪問したくないまち」から「歴史と文化のあるまち」へ転換することを目標として、約10年間継続して「初心者のための上方伝統芸能ナイト」に取り組んでいる。大阪府下の小中高での授業、修学旅行・訪日外国人の誘客にも取り組み、大阪市、大阪観光局、商工会議所とも連携し地域全体で文化芸能の普及活動も実施している。

【評価のポイント】

・観光客に伝統芸能を分かりやすくコーディネートする役割を民間の立場で果たしている。大阪の伝統芸能の継承にも寄与する。

・着地型旅行商品として素晴らしい。都市の伝統的な文化を伝承するために、外から来る人を受け入れる資源として非常に重要。

受賞の喜び

山本佳誌枝
事務局長

栄えある賞を頂戴できてすごくうれしい。

大阪は「汚い」「危険」「ひったくりが多い」といったステレオタイプ化されたイメージがあるが、そうではない上質の部分をこの賞で取り上げてもらった。その大阪の本当の魅力が日本中に、また、世界に向けて伝われば何よりありがたい。

JTB
感動のそばに、いつも。

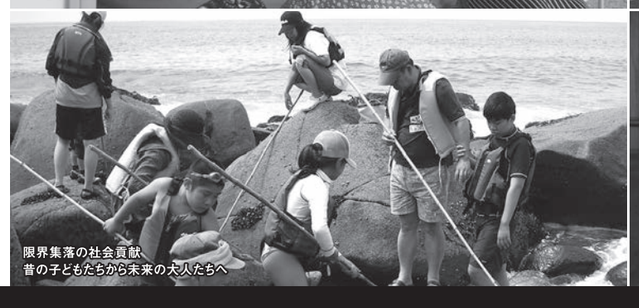
JTBは、地域・文化・人との新しい出会い、「交流文化」を支援・推進します。

JTB交流文化賞

JTB交流文化賞は、地域に根ざした持続的な交流の創造と地域の活性化に寄与することを目的として、2005年に創設されました。以来、10年以上にわたり、地域・文化そして人との新しい出会いを応援すると共に、受賞地域を様々なかたちでバックアップしています。
第12回「交流文化賞」では、多数のご応募をいただき、ありがとうございました。
これからも本賞を通じて、様々な交流文化の広がりと地域の発展に寄与してまいります。

第13回「JTB交流文化賞」は、2017年初夏に募集開始予定です。皆様からのご応募を心よりお待ちしています。

本場のきりたんぽ、秋田弁♪、かっちゃが魅力の秋田県大館市


限界集落の社会貢献、昔の子どもたちから未来の大人たちへ

「芸能の都・大阪！」～the capital of performing arts in Japan!

お問い合わせ先　JTB交流文化賞事務局（株式会社JTB総合研究所内）　tel.03(6722)0757(10:00～17:30 土・日・祝日休み)　fax.03(6722)0753　e-mail: jtb-kbunkasho@tourism.jp　JTB交流文化賞　検索